

## 2012 年度 第 2 回水工学委員会 議事録

日時： 2013 年 3 月 5 日（火） 18:00～19:35

場所： 名城大学天白キャンパス 共通講義棟南館 S401

出席者： 小松利光（顧問）、砂田憲吾（顧問）、寶馨（委員長）、道奥康治（副委員長）、篠田成郎（幹事長）、大石哲（編集幹事長）、朝位孝二、天野光歩、泉典洋（代理：内田龍彦）、大槻英樹、川越清樹、河原能久、神田佳一、清水康行（代理：木村一郎）、鈴木正人、立川康人、富永晃宏、中北英一、中嶋規行、原田守博、松山昌史、矢野真一郎、渡邊康玄の各委員、浅沼順、今村正裕、岩見洋一、門田章宏、神田学、清水義彦、角哲也、関根正人、田中規夫、田中昌宏、知花武佳、戸田祐嗣、中津川誠、二瓶泰雄、藤田一郎、矢島啓、川池健司（オブザーバー）、河村明（オブザーバー）[敬称略]

議題：

寶委員長からの挨拶の後、以下の事項について審議が行われた。

### 《報告事項》

#### 1. 本年度の委員会活動報告

##### a) 行事報告（篠田成郎 幹事長）

資料に基づき、以下の 3 件について、行事報告が行われた。

- ・第 17 回水シンポジウム 2012in ぎふ（2012 年 7 月 26 日～27 日）
- ・2012 年度(第 48 回)水工学に関する夏期研修会（2012 年 8 月 27 日～28 日）。
- ・第 57 回水工学講演会について（2013 年 3 月 5 日～7 日）

##### b) 災害調査報告（篠田成郎 幹事長）

資料に基づき、2012 年 7 月に発生した九州北部豪雨災害に関する調査団について報告された。また、2013 年 3 月 5 日の河川災害に関するシンポジウムにおいて、本調査結果として 2 件が報告されたことも補足された。

#### 2. 各部会、小委員会の報告

##### a) 水文部会（神田学 部会長）

資料に基づき、2013 年 3 月 5 日に開催された水文部会の概要が説明され、次期部会長には、浅沼筑波大学教授が推薦されたとの報告があった。また、2012 年 11 月 10～11 日に香川大学にて開催された第 13 回地下環境水文学に関する研究集会についても、資料に基づき報告され、来年は山梨大学で開催される予定であることが伝えられた。

##### b) 基礎水理部会（富永晃宏 部会長）

資料に基づき、次の事項が報告された。

2012 年 10 月 21 日に第 2 回の基礎水理部会が熊本で開催された。10 月 22～23 日に熊本県の河川の視察を行った。数値解析と実験に関する包括的な研究を行うことを目指して新規部会員 3 名を加え、会員が 30 名となった。また、基礎水理シンポジウムを 12 月 3 日に開催し、数値水理学における数値計算に関する特別講演 2 つと一般講演からなるプログラムを構成した。今後の予定として 2013 年 4 月 17 日～19 日に河川流・河床変動解析ソフト iRIC ver.2 の講習会を行う。チュートリアルに従って PC で操作する形にする。

##### c) 環境水理部会（二瓶泰雄 部会長）

資料に基づき、次の事項が報告された。

研究集会を 2012 年の 5 月に九州の水俣・球磨川で行った。また、環境水理学の出版企画書を提出しており、年内に原稿を作成して、次の水工学講演会までには印刷できるようにする予定である。毎年行っている流域圏シンポジウムを、東日本大震災のがれきからの放射線物質を流域から捉えることを趣旨として開催した。

##### d) 河川部会（代理報告：内田龍彦 部会員）

資料に基づき、次の事項が報告された。

2013 年 6 月 6 日～7 日、東京大学農学部柳井講堂で河川技術に関するシンポジウム開催と部会の現状の報告を行うこととしている。前回のシンポジウムで寶委員長より講演頂いた

ことを受けて、官の人から精度の高い洪水予測というものを行いたいとの意見が出たため、これを受けて、実務に使えるような洪水予測について本格的に議論することで応募する。現在のところ、応募された要旨の査読を行い、その中から 129 編を採択し、論文の締切を 4 月 4 日としている。

- e) **地球環境水理学小委員会** (中北英一 委員長)  
本日開催されたアゲールシンポジウムに加え、京都で開催されたシンポジウムについて委員の皆様に対するお礼の言葉があった。
- f) **東南アジア河川流域研究小委員会** (河村明 委員長)  
資料に基づき、マレーシア・インドネシアでの講演等および今回の水工学講演会・国際セッションでの東南アジア関係発表 10 編について報告された。
- g) **ISO/TC113 小委員会** (代理報告：篠田成郎 委員長)  
資料に基づき、これまでの経緯、現在の活動状況および今後の課題が報告された。また、藤田委員よりこれまで FRICS の中尾氏が窓口になっていたが、昨年より土木研究所が担当になって今後の進め方を考えていることが補足された。
- h) **流量観測技術高度化研究小委員会** (藤田一郎 委員長)  
資料に基づき、2013 年 4 月 18～21 日に予定されている合同観測について報告された。今後、HydML 等を通じて、広くアナウンスする予定であることが補足された。
- i) **JHHE 編集小委員会** (川池健司 幹事)  
資料に基づき、2012 年 11 月に JHHE 最終号を発刊したことが報告され、今後は、土木学会英文論文集の B 部門にその役割を引き継いでいることが補足された。また、寶委員長より謝意が述べられた。
- j) **水理公式集改訂検討小委員会** (寶馨 委員長)  
資料に基づき、水理公式集改訂に関する検討状況について報告された。また、二瓶委員よりアンケート趣旨およびアンケート結果に関する分析の報告があった。
- k) **水理実験指導書編集小委員会** (藤田一郎 委員長)  
資料に基づき、水理実験指導書改訂に関する検討状況について報告された。アンケートについては 2013 年 3 月 1 日で回答が締め切られ、30 件ぐらいのレスポンスがあったことやデータシートをネットからダウンロードできるようにする等の意見があったことが紹介された。今後、工業高校のアンケートも収集する予定であることが補足された。

### 3. 第 18 回水シンポジウム (高知) について (篠田成郎 幹事長)

資料に基づき、同シンポジウムの開催概要案が報告された。また、2013 年 2 月 28 日に第 1 回企画部会が開催され、治水に加えて津波遡上対策が重要なテーマとして位置づけられ、これに関連した避難行動計画やクリーンエネルギー対策のための水質・環境面からのテーマも含めることが検討されていることが補足された。なお、委員交代により、次期水工学委員長・幹事長がこのシンポジウムを引き継ぐことが伝えられた。

## 4. その他

- a) **水工学委員会次年度重点テーマの報告** (篠田成郎 幹事長)  
土木学会本部より次期重点テーマについて報告するように依頼があり、水工学委員会として、資料に示す回答を行ったことが報告された。
- b) **次期土木学会 ISO 対応特別委員会委員の報告** (篠田成郎 幹事長)  
土木学会 ISO 対応特別対策委員会への委員推薦依頼に対して、水工学委員会として、堀田 ISO/TC113 小委員会委員長を選出したことが、資料に基づき報告された。
- c) **次期土木学会論文集 (B 部門) 合同編集委員会委員推薦の報告** (篠田成郎 幹事長)  
任期満了に伴う委員の交代について、資料に基づき、報告された。
- d) **土木学会論文集 (B 部門) 合同編集委員会報告** (関根正人 委員長)  
資料に基づき、次の事項が報告された。  
和文論文集については、変更が進みだいで落ち着いてきており、水工学分野の B1 通常号は、昨年の 1 月から 12 月までの間に総数 12 編の論文が掲載され、総 158 頁が既に J-Stage 上に掲載されている。ここ 3 年間の平均返却率は低くなり、現在 28%、採択率 72%である。投稿から掲載までの期間は 2010 年～2012 年では、査読のスピードアップを図ったため、

約9ヶ月半となっている。昨年からJHHEの流れを継いだ形で英文論文集の発刊が始まる。4月から一般投稿論文の受付を開始して、通常号の論文集からの推薦論文も決め、9月に著者に依頼して原稿が出てきている。2013年1月からJ-Stage上に掲載が始まって、既に幾つかの論文が掲載されている。2013年度は東日本震災関連の特集を掲載するため、Bについては2編の招待論文を戸田委員長より依頼され、1編の執筆を依頼中。B部門以外に関しては、和文としてセレクトされた論文を英文化して、査読は殆どなしでそのまま掲載されているが、B部門については一般に投稿されている論文があるため、査読をしている。英文から和文に変えただけの論文については、チェックをして英文校閲に回している状況で、査読はせずに速やかに動かしている。Bの英文論文集に関しては、基本的にはJHHEの流れのものとということでスタートしているが、B2、B3のほうからは、Coastal Engineering Journalがあるので、論文は推薦せず、これには投稿できないことになっていたが、一般投稿論文が幾つか出てきているため、一般で審査し掲載することとした。通常号は和文論文、英文論文は英文論文集のほうに投稿することになっている。英文論文に関しては掲載無料。一方、論文編集調整会議より、特集号、水工学論文集ともにJ-Stage上に掲載されるが、従来のBIBファイルで投稿するのではなく、XML形式で投稿する形に変更される旨の通知があった。このため、水工学論文集では、PDFファイルに加えて、XMLファイルを作る手間がかかることになり、今後、そうした費用についても検討が必要。

e) **水工学委員会を取り巻く諸状況** (寶馨 委員長)

国際共同研究の枠組み、学術会議の大型研究計画、水循環関係の大型研究の提案、防災関係における国際社会科学会議、国連の防災戦略の提案(統合災害リスク科学研究)の分科会議などの動きについて紹介された。また、国際的な防災の共同研究をどの様にしていくかについて、水工学分野からは小池東大教授が出席されていることも紹介された。さらに、防災・減災分野、水循環の分野が重点領域となる予定であることが伝えられ、今後の動向について随時連絡することが述べられた。一方、タイの洪水・水管理のプロジェクトの小委員会を昨年の夏ぐらいから始めており、今後、日本としてどの様に対応するかについての検討を行っていることが、資料に基づき紹介された。

## 《協議事項》

1. **第49回水工学に関する夏期研修会(2013年, 名古屋工業大学)** (富永晃宏 委員)

資料に基づき、2013年度の夏期研修会開催案が説明され、承認された。

2. **第58回水工学講演会の開催について(2014年, 神戸大学)** (大石哲 委員)

資料に基づき、2013年度の水工学講演会開催案が説明され、承認された。なお、会場の部屋割りの調整には柔軟に対応可能であることが述べられた。

3. **水工学委員会構成について**

a) **今年度の体制** (篠田成郎 幹事長)

資料に基づき、2012年度の体制が説明された。これに対して、水理公式集改訂検討小委員会については、今後、委員長を決めていくため、空欄とすることが修正事項として指摘され、これが承認された。また、タイの洪水水資源プロジェクト検討小委員会についても追記する必要があることも指摘され、承認された。なお、その正式名称については、後日確認の上、組織図に反映させることとなった。

b) **水害対策小委員会設置の提案** (寶馨 委員長)

資料に基づき、委員長提案として水害対策小委員会の設置案が示され、今回の委員会をもって発足させることを含め、これを承認した。ついで、堀京都大学教授・防災研究所副所長を本小委員会委員長とすることが提案され、これを承認した。なお、土木学会の各支部に既存の災害対応組織・体制との調整が必要であるとの意見が出され、今後の本小委員会メンバー選出に際して、こうした調整を行いながら進めていくことになった。

4. **その他**

a) 次年度の会議予定（篠田成郎 幹事長）

資料に基づき、2013年度の会議予定案が説明され、承認された。

b) 2013年度土木学会全国大会での研究討論会企画応募（篠田成郎 幹事長）

立川委員より Common MP や iRIC 関連の研究討論を企画して、水工学委員会から応募したい旨の希望が示された。篠田幹事長より、昨年度は穴あきダムに関する研究討論を水工学委員会として企画提案し、実施したことが紹介されるとともに、現時点では、他に提案が出されていないため、他の提案の有無を確認の上、複数の提案があった場合には、水工学委員会執行部にて決定し、他の提案が無かった場合には、立川委員の提案を学会本部に提出することが提案され、これが承認された。

c) 顧問の推挙について（寶馨 委員長）

3月5日の本委員会終了後、メール審議により、慣例にならい、前水工学委員長の中川一先生（京都大学教授）を次期水工学委員会の顧問に推挙することが承認された。

### ◎水工学委員長選挙

篠田幹事長より、資料に基づき、水工学委員会委員長選挙細則について説明された後、水工学委員長選挙が行われた。投開票の結果、神戸大学の道奥康治教授が選出され、次期委員長として推薦することが決まった。

以上